



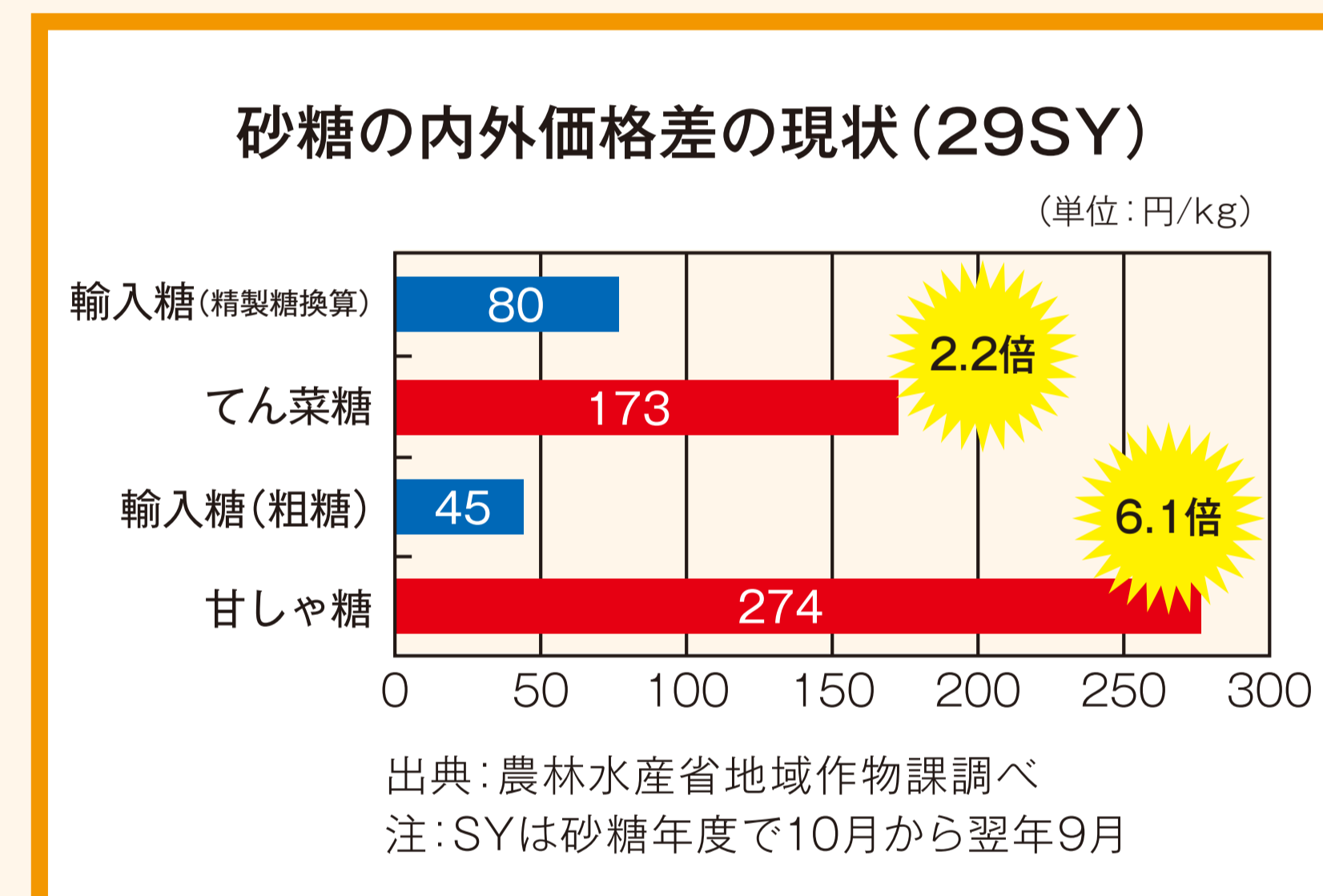
日本の砂糖を支える仕組み

— 砂糖の価格調整制度 —

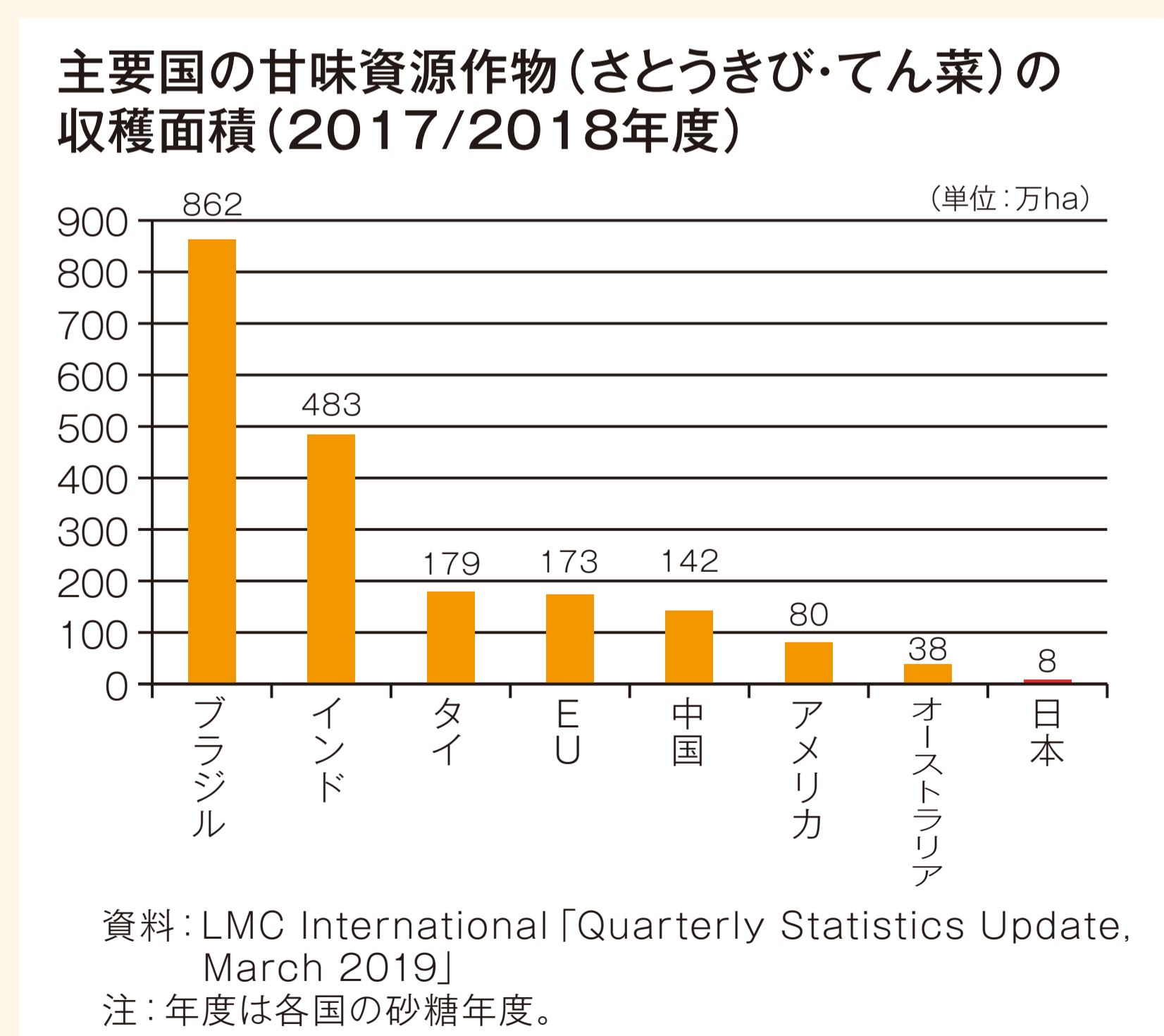
- 砂糖は内外価格差が大きいいため、何もしなければ国内産糖の生産は存続できません。
- このため、国の政策として安価な輸入糖から当機構が調整金を徴収し、これを主な財源として沖縄県や鹿児島県のさとうきび生産者や北海道のてん菜生産者、また甘しや糖・てん菜糖製造事業者を支援しています。

内外価格差

- 国内産糖は、海外産と比較すると、てん菜糖で約2倍、甘しや糖で6倍もの内外価格差があります。



- これは、海外の主要生産地では大規模生産により費用対効果が高いことや、低賃金の労働力、さとうきび栽培に適した気候が要因となっています。



砂糖の価格調整制度の仕組み

- 具体的には、
 - ① 輸入される粗糖や異性化糖、加糖調製品から調整金を徴収し、
 - ② これを主な財源として、国内のさとうきび・てん菜生産者、甘しや糖・てん菜糖製造事業者に対し交付金として支援する。
 この仕組みによって、内外価格差のある両者間のバランスがとられ国内価格が同じ水準となり、国産の砂糖が消費されるようにしています。

制度のイメージ図

